



創造への道 町民一丸で  
厚真町長 宮坂尚市朗

2022年の幕開けを迎えるにあたり、町民の皆さまに謹んでごあいさつ申し上げます。旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、あらためて心より感謝申し上げます。

本町に未曾有の災害をもたらした平成30年北海道胆振東部地震から既に3年4カ月が過ぎようとしています。発災からこれまでの間、全国・全道の関係機関から深いご理解と多大なご尽力を賜り、全国から寄せられた温かいご支援に心から感謝申し上げます。

昨年は、追悼式に合わせて慰霊碑の除幕式を滞りなく挙行でき、犠牲となられた37人の方々のしるし、ご

冥福をお祈り申し上げます。新型コロナウイルス感染症に関するまん延防止等重点措置が発令されている中で、追悼式でありましたが、復旧・復興とその先にある新たな創生への道を、町民一丸となってまい進することを誓い申し上げます。

現在、町内において、国、北海道、厚真町が施行する社会基盤の復旧は順調に進んでいます。一方で、宅地耐震化事業の推進と3000haを超える森林再生が課題となっており、関係者の皆さまには大変ご心配をおかけしています。また、甚大な被害があった北部山間地のコミュニティ再生やいまだ癒えることのない心の傷を抱えながら、不安な日々を過ごされている皆さまへのアプローチなど、感染症拡大防止のためやむ無く中断を余儀なくされてきました。地域再生と心のケアを地域や個々の事情に寄り添いながら、必要な取り組みを再び加速させていかなければなりません。専門性の高い分野もありますが、身近なコミュニティの支えや活動が、今後はさらに重要になってまいります。町民の皆さまのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。



新たな力強き芽吹きのに  
厚真町議会議員 渡部 孝樹

町民の皆さま、明けましておめでとうございます。

皆さまには輝かしい新春を健やかに迎えることと心からお喜び申し上げます。

また、旧年中は日ごろから町議会に對しまして、温かいご支援、ご指導を賜り心から厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年中は、引き続き新型コロナウイルス感染症が全世界に拡大し、日本国内においても感染者数が日々変動し、緊急事態宣言が発令されるなど経済活動や社会生活で大き

る復旧・復興計画では、「このつながりを未来へ」を主要テーマにしています。第一に住まい・暮らしの再建や心のケアの継続、地域コミュニティの再生・活性化の取り組み、第二に産業基盤の復旧と特に被害の大きかった森林および林業の再生、震災をきっかけとした絆と関係人口の拡大を図り新たな事業の創出への挑戦、第三に震災の教訓を踏まえ、避難所や避難道路を見直し、地域防災・減災体制の強化、第四として震災で学んだ多くの教訓と復旧・復興の記憶や経験を町内外で共有し、防災意識社会の実現を目指しています。

同様にまち・ひと・しごと創生総合戦略では、自分が誇りをもって働ける仕事の創出や、暮らしの課題解決に向けてたくさんの方々のチャレンジが求められるべきでありたいと願い、「ローカルで挑む」をテーマとして、挑戦者と伴走しながらさまざまなイノベーションを取り込む環境を用意してまいります。さらに、強靱化計画も包含しており、大規模自然災害から町民の生命・財産と本町の社会経済システムを守り、持続的成長を促進してまいります。

この総合計画改訂版が目指すところは、関係人口も含めた人々のつながりの大切さ、日ごろからの備えの大切さ、震災の経験や地域の記憶を継承し、

「スピード感を政策実行に発揮すべく全力を挙げる」と宣言しました。今後の動向に期待し注視していく必要があります。

一方、町内においては、東京2020オリンピック・パラリンピックの聖火リレーのトーチがかわわ公園野球場で披露されたほか、旧軽舞小学校で行われた採火式では、町内の遺跡から発掘された北海道内最古の火打石にちなんで火打石で発火させ、「厚真町の火」としてランタンにともされました。また、11年ぶりに厚真町の新米を皇室に献呈する新嘗祭献穀「御田植祭、抜穂祭」の実施、復興のシンボルの一つになる厚真地域防災コミュニティセンターならやまが落成。さらに、厚真町吉野地区の開拓、発展の象徴であった「吉野校」があったこの地に、公益財団法人吉野山保勝会と公益財団法人イオン環境財団より寄贈頂いた桜の植樹を実施できたことは喜ばしい限りであり、数年、数十年後に満開に咲き乱れる様子を思い浮かべるところであります。

また、新年への期待も膨らませています。2年連続で実施できなかった「田舎まつり」が開催できたのは、町民、関係団体、交流人口の方々が集まり、踊りパレードやステ

憶を後世に伝える大切さなどです。被災したまちだからこそ気づかされた地域社会や歴史という時間軸におけるさまざまな絆を生かし、この町でもっと幸せに暮らすために必要な環境を整え、豊かな自然に抱かれたこの町を選び、移住・定住する方々の価値観を大切にすまわす。

最新の話題では、庁舎建設と公共施設群の再編成、高度情報通信基盤整備やエネルギー地産地消事業を契機としたゼロカーボン北海道構想への貢献が挙げられます。SDGsの理念を尊重し、Society 5.0時代の社会構造転換にちゅうちよなく挑む、人材や未来への投資を怠らぬ挑戦者として復旧・復興を成し遂げてまいりたいと願っています。

一昨年前に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの暮らしは大きな制約を強いられています。皆さまには、引き続きの感染予防に努めて頂きますようご理解とご協力をお願いします。

二重災禍という「厳しい冬」を乗り越え、町民に笑顔が広がり、町が再び輝きを取り戻せるよう、地域と行政が一体となった創造的復興の一步に全力を傾注してまいります。

結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつとします。

「スピード感を政策実行に発揮すべく全力を挙げる」と宣言しました。今後の動向に期待し注視していく必要があります。

現在、このコロナ禍においても、すべての被災者が復興を実感できるように二元代表制の一翼を担う議会が、将来にわたり、その機能を十分に発揮していくためにも、議会としての自主性を高めつつ、引き続き、自らの判断により機能行使できる議会の構築に努める所存でございます。

本年も、町民の皆さま方からのご意見を丁寧に向い、町議会が一丸となって参りますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年の干支は「壬寅」。『陽氣を孕み、春の胎動を助く』といわれ、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれることを表しているとされており、ます。震災・疫病に負けず、これからの新たな力強き芽吹きが、町民皆さまにあらんことをお祈り申し上げます。新春のごあいさつとさせていただきます。

公職選挙法の規定により、議員から町民の皆さまへの年賀状は失礼させていただきます。